

確かな学力を身につけさせるための指導法の工夫

～算数科の基礎的・基本的な内容の確実な定着をめざして～



○学校名	松伏町立松伏小学校
○所在地	北葛飾郡松伏町ゆめみ野東1-1-2
○電話番号	048(991)2238
○E-mail アドレス	matusyo@educet.plala.or.jp
○ホームページ	http://matsubushi.ed.jp/matusyo/

1 研究主題

「確かな学力を身につけさせるための指導法の工夫」
～算数科の基礎的・基本的な内容の確実な定着をめざして～

(1) 主題設定の理由

本校では、平成22年度・平成23年度に松伏町教育委員会委嘱を受け、研究主題を「確かな学力を身につけさせる指導法の工夫」とし、算数科の『A数と計算』を重点的に、基礎的・基本的な内容の確実な定着をめざして、研修に取り組んできた。

その二年間の研修を通して、成果として上がったことは、以下の4点である。

- ①児童に分かりやすい授業の進め方が確立してきたこと。
- ②児童の個性や能力に応じた少人数指導を行えるようになってきたこと。
- ③埼玉県学習状況調査や埼玉県教育に関する3つの達成目標に係る効果の検証結果の数値が上昇したこと。
- ④「算数が分かる」という児童が増えたこと。

しかし、その一方で、授業の中で思考を深めること、児童の学力の個人差や長期的な学力の定着に課題が残った。そこで、本年度は、昨年度までの研究を踏まえ、授業作りを大切にしながら、児童にさらなる確かな学力を身につけさせたいと考え、本研究主題を設定した。

(2) 研究の仮説

- 【仮説1】児童の「分かった」「できた」という経験から、楽しいと感じる機会を増やせば、学習意欲が高まり、主体的に学習に取り組めるだろう。
- 【仮説2】家庭と連携を図りながら、児童に学習する時間や学習のやり方を示していけば、学習する機会が増え、算数の確かな学力が身につくであろう。

(3) めざす児童像

- ①算数の楽しさを感じながら、主体的に学習に取り組める児童
- ②算数を進んで学習し、算数の確かな学力が身についた児童

(4) 研修の視点

- 【仮説1】・自分の考えを明確に持てる問題提示・発問の工夫
・授業の中に算数的活動を積極的に取り入れる工夫
・様々な思考が生まれる学習の場の工夫（思考力）
・児童の個性や実態に応じた評価と指導の工夫
- 【仮説2】・「算数カルテ」などを利用した、児童の実態把握
・朝学習（算数）等を活用した、確かな学力を身につけさせる指導の工夫
・家庭との連携を図った、家庭学習のあり方の工夫

2 研究の実践

(1) 学年部会

- ・研究仮説を設定し、仮説に沿った研究・実践を推進する。
- ・学年内で1つの研究・先行授業と一人1回公開授業を行う。
- ・学年内で、先行授業を実施し、授業研究部を交えて話し合い、指導法の工夫・改善を図る。



(2) 専門部会

ア 授業研究部

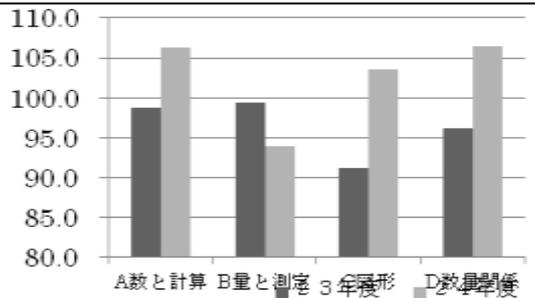
- ①「学力の向上」に適した、指導案の形式の検討
 - ・単元の系統性やその単元を身につけるために必要となる力を把握した、レディネステストの開発と実施
 - ・算数的活動を指導案の中に位置づける
 - ・評価項目だけでなく、評価の指標を指導案に明記する
- ②学校全体で共通理解を図り、取り組むための「授業の進め方」、「自力解決の仕方」「話し合いの仕方」の検討



イ 調査・統計部

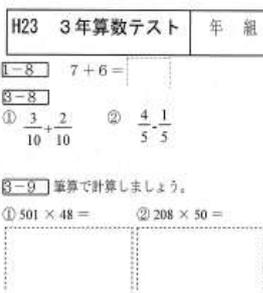
- ①算数・家庭学習アンケートの実施・集計
- ②埼玉県学習状況調査の集計・本校における苦手問題の考察
- ③町で実施している学力テストの集計・考察
- ④単元別に実施している算数テストの定着度の集計・苦手問題の把握

埼玉県平均を100%としたときの本校の状況

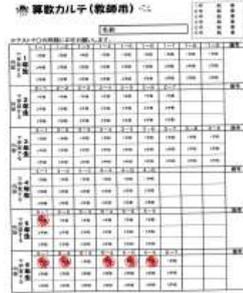


ウ 算数カルテ部

- ①週1回の朝学習の時間を活用した、基礎学力の定着を図るための取組
- ②県学習状況調査などの苦手問題を踏まえたプリントの作成



7月、12月、3月に児童の実態を調べるため、テストを行った。



担任が児童のつまづきを確認するため、「算数カルテ」を作成した。



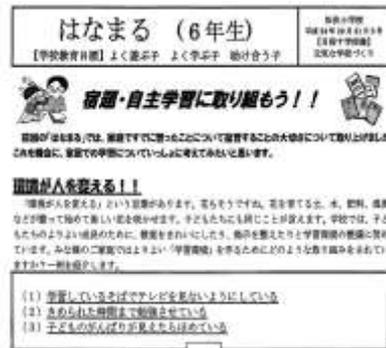
児童にもつまづいた箇所を把握させる「やる気パスポート」を配布した。



学期末のテストに向けて朝学習の時間にミニプリントを取り組ませた。

エ 家庭教育連携部

- ①県学習状況調査で分かった本校の実態を踏まえ、家庭学習の習慣化を図り、学力の向上をめざす
- ②家庭学習日より「はなまる」を各学年・月1回発行し、家庭への啓発を促す。
- ③「家庭学習の手引き」を作成し、家庭学習のやり方を示し、家庭学習の習慣化を図る。
- ④週1回朝学習の時間に「家庭学習の定着の時間」を設け、家庭学習の取り組み方を身につけさせる。



3 研究の成果

- 繰り返し研究授業等を行うことにより、問題の見通しの立てさせ方や教師の発問の仕方など、指導法が改善され、授業の流れも統一されてきた。
- 本校児童の苦手分野を把握することで、昨年度より改善された学習プリントが作成できた。
- 少しずつではあるが、家庭学習の大切さが児童や保護者に伝わるようになってきた。